

A Prospective observational study using sea cucumber and honey as topical therapy for diabetic foot ulcers in Indonesia

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: eng 出版者: 公開日: 2018-06-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/2297/00051284 |

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



平成 30 年 2 月 20 日

博士 論文審査結果報告書

報告番号

学籍番号 1529022020

氏名 HARYANTO

論文審査員

主査（職名）表 志津子（教授）

印

副査（職名）須釜 淳子（教授）

印

副査（職名）中谷 壽男（教授）

印

印

論文題名 A prospective observational study using sea cucumber and honey as topical therapy for diabetic foot ulcers in Indonesia

論文審査結果

【論文内容の要旨】

本研究の目的は海鼠の糖尿病足潰瘍 (Diabetic Foot Ulcer : DFU) における創傷治癒効果をバイオフィルム、腫瘍壞死因子 (TNF- α)、マトリックス分解酵素 (MMP) -2、9 を指標として評価することである。研究デザインは前向き観察研究である。42 名の糖尿病患者に新規に発生した DFU に、海鼠あるいは蜂蜜が創部に使用された (各群 21 名)。調査場所は、インドネシア西カリマンタン・ポンティアナックにある創傷専門クリニックまたは創傷外来であった。調査期間は 2016 年 3 月から 2017 年 2 月であった。創傷は 12 週間観察された。海鼠使用群では、調査開始時と比べ 8 週、10 週、12 週の TNF- α が有意に低下した ($p=.005, .006, .010$)。両群のバイオフィルム陽性→陰性変化割合に有意差はなかった ($p=.55$, Fisher exact test)。さらに群間の創傷治癒に有意差はなかった ($p=.66$, Kaplan-Meier 解析、log rank test)。海鼠は DFU の創傷局所療法として使用可能であると示唆された。

【審査結果の要旨】

DFU は慢性創傷の一つであり、容易に感染を併発し、治癒が遷延するだけでなく、重症化すると下肢切断や敗血症による生命危機をもたらす創傷である。このため DFU の局所管理において、いかに感染制御をうまく行うかが鍵となる。海鼠の抗炎症作用、抗菌作用、創傷治癒効果については生物学的、薬理学的にビトロあるいは実験動物にて報告されている。しかし臨床においての創傷治癒効果については報告されておらず、本研究によって臨床のエビデンスが提供された。発表は初めて聞く人に配慮したわかりやすいものであった。また、質疑応答において、バイオマーカーの選定理由、測定の妥当性、海鼠の抽出法について質問されたが的確に回答していた。以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価する。